平成 27 年 度

野崎伸也君に対する懲罰特別委員会記録

審 査 ・ 調 査 案 件

- 1. 野崎伸也君に対する懲罰の件について 1
 - 1. その他 29
-

平成 27 年 7 月 3 日 (金曜日)

野崎伸也君に対する懲罰特別委員会会議録

平成27年7月3日 金曜日

午前10時01分開議

午後 2時05分開議（実時間100分）

○本日の会議に付した案件

1. 野崎伸也君に対する懲罰の件について
1. その他について

○本日の会議に出席した者

委員長 田方芳信君
副委員長 古嶋津義君
委員 大倉裕一君
委員 亀田英雄君
委員 鈴木田幸一君
委員 成松由紀夫君
委員 前垣信三君
委員 増田一喜君
委員 村川清則君
委員 山本幸廣君
委員 幸村香代子君

※欠席委員 君

○委員外議員出席者中発言の許可を得た者

君

○説明員等委員（議）員外出席者

議会議務局 國岡雄幸君
首席審議員兼次長
次長補佐兼 梅野展文君
総務係長

○記録担当書記 國岡雄幸君
梅野展文君

（午前10時01分 開会）

○委員長（田方芳信君） じゃあ、改めまして

おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）定刻となり、定足数に達しましたので、ただいまから野崎伸也君に対する懲罰特別委員会を開会いたします。

開会に先立ち、さきの6月15日に開催されました本特別委員会において、次回開催日を7月7日と決定いただいたところでございますが、決定後、審議手続等を考慮した結果、開催を本日に変更させていただきましたことを御理解願います。

◎野崎伸也君に対する懲罰の件について

○委員長（田方芳信君） それでは、去る6月15日の本会議で本委員会に付託されました、野崎伸也君に対する懲罰の件を議題といたします。

まず、本委員会の傍聴及び放映に対する取り扱いを協議いたしたいと思っております。

委員会の傍聴につきましては、委員会条例第19条の規定により委員長が許可することになっておりますが、本件は議員の身分に関する事件の審査であり、審査の内容によっては、公平かつ詳細な審査を行うため、本委員会を一般傍聴者に公開しない運用も可能との考えもございますので、傍聴につきましては、懲罰事犯議員以外の議員及び報道関係者のみと限定し、また、その関連として、本委員会の放映はしない取り扱いといたしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） 本委員会の傍聴については、懲罰事犯議員以外の議員及び報道関係者のみに限定し公開とすることとし、あわせて、委員会放映はしない取り扱いとすることについて採決いたします。

本委員会の傍聴については、懲罰事犯議員以外の議員及び報道関係者のみに限定し公開とすることとし、あわせて委員会放映はしない取り

扱いとすることに賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者 挙手)

○委員長(田方芳信君) 挙手少数と認め、本委員会は公開することとし、あわせて、委員会は放映することに決しました。「公開ですよ」と呼ぶ者あり) 公開です、はい。「放映をしますという」と呼ぶ者あり) 放映するちゅうことです。

次に、審査に入ります前に、お手元に配付いたしております各資料について、事務局より説明いたさせます。

なお、野崎伸也議員及び古嶋津義議員による、6月15日の本会議場での発言をテープ起こした文面につきましては、正式な会議録ではないため、委員会終了後、回収させていただきます。

○議会事務局首席審議員兼次長(國岡雄幸君)

おはようございます。事務局より、きょう配付いたしました資料の確認をさせていただきます。

まず1枚目に、2枚とじて、懲罰とはというタイトルで説明があります、懲罰の中身に対する説明資料、これが2枚でとじております。それと、テープ起こしの分が2枚ございます。まず、野崎伸也君に対する懲罰動議趣旨説明会議録(テープ起こし分)と、もう一つは、議長不信任動議趣旨弁明会議録(テープ起こし分)でございます。それと、参考までに、地方自治法の第131条、第132条、第133条関係の抜粋資料を添付させていただいております。お手元でございますでしょうか。「はい、あります」と呼ぶ者あり)

じゃあ、よろしくお願ひします。それでは、座らせて若干説明させていただきたいと思ひます。

まず、懲罰とはという資料に目を通していただきたいと思ひております。2枚物でございます。

(1) 懲罰とはということで、地方公共団体

の議会は、自治法並びに会議規則及び委員会条例に違反した議員に対し、議決により懲罰を科すことができるとされております。

2番目でございます。懲罰の性格ということで、議員の懲罰は、議会の秩序維持と品位保持のために認められる議会の内部的規律作用でありまして、公務員に対する懲罰と同じ性質を持っております。

3番目、懲罰事由。懲罰事由というのは、懲罰はどのようなものに該当するかということで、法律に定めがございます。懲罰事由に該当する場合は、地方自治法、会議規則または委員会条例に違反した場合であるが、その主たるものは、掲げる次のとおりであるということで、まず(1)で、地方自治法違反の例を記載をしております。読み上げます。

(1) 地方自治法違反の例。①議場の秩序を乱したとき。これは、地方自治法第129条に規定がございます。

2番目でございます。無礼な言葉を使用し、または他人の私生活にわたる言論をしたとき。地方自治法第132条に規定がございます。中身につきましては、米印で記載をしております、議会の会議または委員会での品位の保持に反する発言があったとき。例えば、個人的な身辺問題が発言されたときを想定をしております。

それと③でございます。他の議員を侮辱したとき。これは地方自治法第133条に規定がございます。

それと、④でございますけれども、正当な理由がなくて招集に応じないため、または会議に欠席したため、議長が特に招状を発しても、なおゆえなく出席しないとき。地方自治法第137条ということでございます。

今回の事犯の件につきましては、地方自治法違反の②に該当いたしますので、以下のところは省略をさせていただきたいと思ひます。

それと(2)で、会議規則、委員会条例に違

反する例ということで記載をしております。会議規則、委員会条例で議員として遵守すべき義務を規定したときは、その違反行為も懲罰の対象となるということで、具体的に言いますと、品位保持に反する行為、議事妨害、秘密会の議事を漏らす行為等がこういうところに該当するということでございます。

それと4番目でございます。懲罰事犯の場所的範囲ということで、懲罰の事犯は、原則として自治法等に違反する議会内、特定いたしております。議長及び委員会室で会議が行われてる間に発言と言動等があった場合が対象となります。議員のそういう場合の議員の行為に限られると。ただし、例外ございまして、議場外の行為であっても、地方自治法第137条の正当の理由のない欠席者、秘密会の内容を漏らした議員等のほか、会議運営に直接的な影響がある場合、議事妨害とかを行った場合ですね、については、それに対し懲罰を科し得るという解釈がございまして。

それと2ページでございますけれども、5番目の懲罰事犯の時間的範囲でございますけれども、これは、懲罰事犯についても会期不継続の原則の適用があり、原則としてその会期中の行為に限られるが、委員会の閉会中の継続審査に付することによって、次の会議において懲罰を科すことができるという部分がございます。

基本的には、会期中ですね、決着をつけるというのが大原則でございますけれども、時間的余裕がなくて審査が足りないという場合は、例外的な適用ということで、継続審査ということも考えてます。

6番目でございます。懲罰の種類ということで掲げてございます。地方公共団体の議会の行い得る懲罰の種類は、次に述べる公開の議場における戒告、公開の議場における陳謝、一定期間の出席停止及び除名の4種類で、これ以外の

懲罰を科すことはできないと。なお、罰としては、戒告が最も軽く、除名が最も重いということでございます。

まず、軽いほうから御説明いたします。

(1) 公開の議場における戒告。戒告とは、規律違反の責任を確認するとともに、その将来を戒めることであるが、議会における戒告は、公開の議場において、被処分者を議長の面前に起立させ、議長が戒告文を朗読して行うのが通常とされております。なお、この戒告文につきましては、議会の定めた案文によると、要は議会の議決で決めるということです。

次の懲罰の種類でございますけれども、

(2) 公開の議場における陳謝。陳謝とは、その事犯について理由を述べてわびることであるが、議会における陳謝は、公開の議場において、被処分者に議会の定めた陳謝文を朗読させて行うのが通常と言われております。

続きまして、(3) 一定期間の出席停止でございます。この一定期間の出席停止とは、期間を定めて出席を停止することであるが、期間は、その議会の会期中に限られて、当該会期の残存期間において定めることを要するということでございます。八代市の会議規則に、出席停止の期間の定めがございまして、八代市の場合についてはですね、5日間を超えることはできないという定めで、最長5日間という定めがございまして。

4番目、除名。これが最も重い懲罰の種類でございます。除名とは、議員たる地位を失わせることであるが、除名は、他の懲罰処分と異なっており、住民の公選に係る議員の資格を奪うものであるから、その手続を慎重にしており、除名については、地方公共団体の議会の在職議員の3分の2以上の者が出席し、その4分の3以上の者の同意がなければならないということで、特別多数議決の定めを置いております。

それと次、7番目、懲罰の決定ということで

ございますけれども、懲罰の決定については、戒告、陳謝及び出席停止の議決は通常の議決で足りるが、除名処分の場合は、先ほど述べましたように、在職議員の3分の2以上の者が出席し、その4分の3以上の者の同意がなければなりません。この議決には、議長も評決権を有すると。なお、この懲罰決定に際しては、当該議員は除斥の規定が適用されます。

なお、懲罰処分の効力の発生の時刻は、議決のときから進行いたしまして、本人に対してその旨の通知がなされたときではないというふうに解釈をされております。

以上、懲罰に関する大まかな概要説明にかえさせていただきます。

それでは、テープ起こしの分につきましてはですね、後に朗読がございますので、省略をさせていただきますと思います。

地方自治法の抜粋につきましては、参考資料ということで御理解いただきたいと思います。

以上で事務局からの説明を終わります。よろしくお願ひします。

○委員長（田方芳信君） また、本委員会での懲罰事犯の審査の進行について、委員長から委員各位にお願ひがございませう。

まず、本懲罰特別委員会は、去る6月15日開催の本会議における野崎伸也君の議長不信任動議の提案理由説明において、その発言の一部が懲罰事由に該当するかを審議する場でありませう。具体的に申し上げますと、地方自治法、会議規則並びに委員会条例に違反した発言があったのかを判断し、また、違反した場合、次に、懲罰を科すのか、科すとした場合、どういう懲罰を科すべきかを審査する委員会でありませう。

よって、発言の中身について発言の真相を究明するものでありませうので、本審査の趣旨に反する発言及び委員会条例第22条、秩序保持に関する措置に反すると判断した場合は、私から注意喚起を行います。また、本審査について

は、配付資料に基づいて進めます。

委員各位の御理解、御協力を切にお願いいたします。

それでは、配付しております、野崎伸也議員及び古嶋津義議員による6月15日の本会議場での発言をテープ起こしした文面につきまして、順次書記に朗読いたさせませう。

小会にします。

(午前10時17分 小会)

(午前10時28分 本会)

○委員長（田方芳信君） 本会に戻します。

それでは、配付しました資料に基づき質問ありませんか。

亀田委員。

○委員（亀田英雄君） はい。ちょっと何から話せばよいか、ずっと考えとったんですが、1週間前に議長にそのような申し入れを行った風景というのは、この野崎議員の趣旨弁明にあるとおりなんです。そのときはですね、私も同席したんですが、3人の連名で出しました。で、私と野崎君と、あと笹本さんの3人の連名で出したんですが、笹本さんは所用があつて行けなかつた。で、2人で申し入れました。

そんなときは事務局も同席していただければよかつたんですが、事務局の同席がなくて、3人の話し合いなんです、そのときの風景がですね、私たちが正式に申し込んだ風景が、このような形で表現したんですが、議場でも質問したように、それを描写しただけなんですよね。私生活に及んだっていう話じゃなくて、ここの話をあそこで話をしたと。

で、議場で、ここにありませうように、確証もなくということについても言われますが……。

(委員成松由紀夫君「委員長、ちょっと違うんじゃないですか。審査の件と内容が違ひませうよ」と呼ぶ)

○委員長（田方芳信君） 内容のところは違ひ

とやけん。(委員成松由紀夫君「背景は関係ない」と呼ぶ)

○委員(亀田英雄君) ちょっとよかですか。

確証もなくって、侮辱的発言をされたとありましたが、確証があるんですよ。(委員成松由紀夫君「いや、確証とかそういう……」と呼ぶ) いや、議長が話された話ですけん。

○委員長(田方芳信君) ちょっと待ってください。(委員成松由紀夫君「確証とかの中身じゃなくて。審査の中身が違うでしょう。冒頭言われたとおりに進めてください」と呼ぶ) それは不穏当発言になりますので……。

○委員(亀田英雄君) 何で不穏当発言になつとですか。

○委員長(田方芳信君) このあたりで進めていただきたいと思います。

○委員(亀田英雄君) なら小会ばお願いします。

○委員長(田方芳信君) ほんなら小会します。
(午前10時30分 小会)

—————
(午前10時32分 本会)

○委員長(田方芳信君) では、本会に戻して始めたいと思います。本会をお願いします。

○委員(亀田英雄君) もう一ついいですか。

○委員長(田方芳信君) はい、亀田委員。

○委員(亀田英雄君) 古嶋議員のですね、懲罰動議趣旨弁明についてですが、確証もなくという部分についてですよ、そのことについて、確証があるから話しとつとに、そこば確かめもせずに懲罰を与えるということについてですよ、それはいかがなものか、涙の出っごて悔しかつてすたい。あつだから。本当にその話は聞いた話だから。そして前日に、そのような話もあつたんですから。だから、そこを究明せぬと人に罰を与えるってということにはならんぢやなかろうかと私はもう……。筋が違うと言われりけれどですよ、人に罰を与えるという作業は

ですよ、ここはやつば慎重にせぬといかんって私は思う。

○委員長(田方芳信君) いいですか。

○委員(亀田英雄君) はい。私が言うこつちやなかばつてんですたい。

○委員長(田方芳信君) 正直言つて、今の状態の中では特別委員会ちゅうのを設置されておりますので、これを今こちらのほうから読まれたとおりに、地方自治法第132条とか地方自治法第133条ですかね、そういった部分に抵触する部分の中で事を進めていただきたいと思ひます。4つの項目で、懲罰をどこに持つていくのか。これは特別委員会がもうできてますので、これは。その中での、そういうあれの説明ちゅうのは、特別委員会がもう設置されてますから、そこんところをしっかりと考えていただきたい。

亀田委員。

○委員(亀田英雄君) はい、わかりました。

だけどですたい、いろんな話、議論の中でですよ、それは委員長の整理の中でよかつてしようばつてんが、やつばここまで至つてですばい、人に罰を与えるということに対してですよ、慎重に配慮していただきたいと思ひですよ、何と言ひますか、見解の相違があつて、その中でですたい、不信任案の動議が全て懲罰動議になつていくという風景はですよ、これは違ふと思ひとですたい。そんなならあつて懲罰動議、何でん、不信任案な出されぬですもん。不信任案を出したことが懲罰動議になつていくぢやなかですか。それは、今いろいろある言論の自由とかですたい、そげんとは全然なかぢやなかですか。配慮して言葉を選んだつもりでなつとつとですよ。で、その辺も理解してすね、いただきましたかと思ひがあつとですよ。だから、話をさせていただきたいって申し込んだんですが、どこまでの調査をされるのかもよくわからぬもんですけん。

○委員（古嶋津義君） よかですか。

○委員長（田方芳信君） はい、古嶋委員。

○委員（古嶋津義君） 不信任案は別にしまして、あくまでも私が、野崎伸也君に対する懲罰動議の趣旨弁明をした部分、その分は、野崎君が趣旨弁明した部分のその部分が、地方自治法第132条、133条に抵触をするということで動議を提出をし、それが成立をしたということで、あくまでもこの懲罰特別委員会の中では、その部分だけを審査するのが正しいものと私は確信をしております。（「そのとおり」と呼ぶ者あり）

○委員（亀田英雄君） はい。

○委員長（田方芳信君） 亀田委員。

○委員（亀田英雄君） だからですよ、どんな基準でしていくのかってなるもんですけん、いろんな話をさせていただきたいと。あんたが言う、ことも一理あるなというなれば量刑の軽なろうし、まるっきりうそだったらですよ、それは本格、刑——刑というとか、なるしですたい、その辺のある程度の話はみんなで共有しながら、この会議は進めぬとって思うもんですから、その話をさせていただくんですが、その基準がわからぬじゃなかですか。

○委員（成松由紀夫君） 委員長、よろしいですか。

○委員長（田方芳信君） 成松委員。

○委員（成松由紀夫君） 基準とか、その日の趣旨弁明のやりとり云々ということではなくてですね、当日、やはり5時間半にわたっての遅延、それと、議場で言っちゃいけませんよっていう地方自治法第132条、品位の保持ですね。その品位の保持に対して、やっぱり不穏当な発言が、これだけの身辺問題だ金品授受だと言われた、その発言に対してのみの審査だと思いますので。

で、その言われたところのですね、しっかりとした発言をされたそこに審査をされて、懲罰

するのকাশないのか、するとなれば4つの方法の中でどれをするのかっていうのをシンプルに進めていただきたいと思います。

○委員長（田方芳信君） わかりました。

○委員（幸村香代子君） はい。

○委員長（田方芳信君） 幸村委員。

○委員（幸村香代子君） 少し整理をしていただきたいと思うのは、今の成松委員のですよ、発言であれば、懲罰するকাশないかも含めて精査するっておっしゃったですよ。そうすると、古嶋委員は、懲罰するって決まっとっただけけんが、その4つの中のどれにするかば決めるとがこれたいとおっしゃるじゃないですか。で、結局全く違うことおっしゃってるんですよ。（委員成松由紀夫君「一緒ですよ」と呼ぶ）いやいや、違う違う。懲罰に値するかどうかもっていう話でしょう。（委員成松由紀夫君「そういう言い分はそちらもあるでしょう」と呼ぶ）うん。

○委員長（田方芳信君） 幸村委員。

○委員（幸村香代子君） いやいや、だけんそれも、先ほどの冒頭の委員長の中にもですね、この会の持ち方の中にも、きちんと懲罰に当たるかどうかを審議するっていうふうな文言があるんですよ。ということは、古嶋委員がおっしゃるように、もう懲罰するって決まっとるけんが、その中身だけを決めるとがこの会議たいていのとは違うような気がするので、ちょっとそこらあたりをですね、きちんともう一度整理してもらっていいですか。

○委員長（田方芳信君） 現状考えたら……。いいですか。

○委員（幸村香代子君） はい。

○委員長（田方芳信君） 正直言いまして、この場合は、今、特別委員会ちゅうのが、野崎伸也君に対しての特別委員会ちゅう、懲罰委員会ちゅうのが、もう一応ここでこういうぐあいにあります。その中で粛々と進んでいくべきでは

ないんですかね。

○委員（幸村香代子君） 肅々と。

○委員（大倉裕一君） じゃあですね、——いいですか。

○委員長（田方芳信君） 大倉委員。

○委員（大倉裕一君） 委員長が最初おっしゃられた、違反があったのかって、その言葉は何だったんですかね。何を示されてるんでしょうか。

○委員長（田方芳信君） 要するに……。

○委員（大倉裕一君） いや、それが最初あったのか、あった場合、懲罰に値するのか、そういう趣旨の説明をされたと思います。その趣旨を私たちが理解できないと、この会を進めていくにはまだ課題が多過ぎとやないかなって。

○委員（成松由紀夫君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 成松委員。

○委員（成松由紀夫君） 要するに地方自治法第132条に触れてるのは間違いないから、それを議会の皆さんに諮って野崎伸也君に対する懲罰特別委員会を設置したわけですから、あとはその法132条に基づいて、これは抵触してるかしてないのかっていう話はお諮りされて、それで、さわってますよ、で、その次に、あと4つのどの処罰でいくのかということを決めるだけの会議だと思しますので。

○委員（大倉裕一君） はい。

○委員長（田方芳信君） 大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。私、委員長に質問をしておりますので、そのことに対して、お答え、見解をお願いしたいと思います。

○委員長（田方芳信君） その件については、これは懲罰特別委員会ちゅうのがもうできておりますので、その点は、この4項目の中で進めていきたい。もうここで懲罰特別委員会ちゅうのが一応あります。これで、どの位置に決めていくのか、4項目の中のどれをするのか、そう

いった中をここで話し合っていきたいと思いません。

○委員（亀田英雄君） はい、委員長。

○委員長（田方芳信君） 亀田委員。

○委員（亀田英雄君） だけんですたい、項目のどれに値するかというのは、ある程度話ば聞かぬば当てはまらぬんとじゃなかか、はめならぬとじゃなからうかということが言いたかっですたい。

○委員長（田方芳信君） でも……。

○委員（成松由紀夫君） 委員長、よかですか。

○委員長（田方芳信君） 成松委員。

○委員（成松由紀夫君） 要するにこの6月15日の本会議場の発言分ですよ、あくまで。この発言分であって。大分話が横道にそれよるけんですね、もとにちょっと戻した路線で話したかっですけど、要するに、野崎議員の発言の中に、会派視察において政府要望を行った行為は言語道断とかですね、これもまず問題発言なわけですよ。古嶋議員の趣旨弁明にもあるようにですね、八代市議会の政務活動費の交付に関する条例第5条に照らせば、これも批判事例には当たらない、批判されるようなものではないわけですよ。

それと、一方的に自身の身辺問題云々っていうところから釈明を始められました云々ってありますけど、これは、とり方——言い方、とり方で、議長はもしかしたら、釈明というよりも説明をされたようなところもあると思うんですね。

だから、そっちのところに入り込む部分で何かもう問題があれば、警察なり法廷なりで話をされることであって、あくまで議場は、品位の保持で言うたら、そういうところに入り込んでいかぬですよっていうのが、青森地裁の判決の中でもですね、ここは除名処分になつてますが、懲罰としての除名処分は違法性がないと

というようなこともあるので、そういう中がどうかうってということじゃなくて、あくまで議場での発言についてどうなんですかっていうことでいくと、この、自身の非は一切認めずとかですよ、幻滅させられたなんちゅうのは、これも受け取り方ですね。

受け取って感じ取られる分はいいんですが、それを議場で、幻滅させられただの、金品を授受されただの、政治資金規制法に抵触する可能性も拭えない、この政治資金規制法に抵触するかしないかなんちゅうのは、議場の話じゃなくて選管の話ですよ。そういうことはもうそっちで、選管なり警察なり法廷なりで話をされることであって、それをですね、地方議会とまた国会は違うわけだから。

そういうところにどンドン話が波及してですよ。そして、実際問題、身辺問題、金品授受なんていうことを議会の放送にも乗せて。これ相当、橋本議長の政治生命にかかわるような発言ですよ。だから、野崎議員がこういう懲罰特別委員会にかけられることも、これは野崎さんも傷がつくだろう。

だからそういうですね、傷をつけ合うことがないように品位の保持というのが地方自治法第132条であるわけだから、これをしっかりここではっきりさせとかなないと、言いたい放題になってですね、八代市議会の議会の品位が保たれないと思います、私は。

だから、そこはシンプルに、この6月15日の会議録を見てですね、議場で話された分が、これが地方自治法第132条にひっかかってますよと。それについて諮っていただいて、あとはどれが適当なのかということ、しっかりここで抑止力をですね、やっていかないと、やりたい放題の議会になると思います。よろしくお願いします。

○委員長（田方芳信君） 亀田委員。

○委員（亀田英雄君） やりたい放題という話

じゃなかったですが。私たちが正式な申し入れに行ったときに、言いたい放題だったんですよ。やめてください話したんですよ。そこが、最終的なこいば提案する引き金になったというところをここに写しとるだけです。それはもう見解の相違もあってでしょうし、それが全てを懲罰の動議にされるということに対して、今話ばしとっとですたい。せんば基準がわからぬでしょう。

○委員（成松由紀夫君） いやいや。はい、委員長。

○委員長（田方芳信君） 成松委員。

○委員（成松由紀夫君） 正副委員長でちょっと話を決めていただきたいのが、6月15日以前の話ですね、ああでもないこうでもないと言われると、結局、話がどこまででも行くわけですよ。去年の話とか何だとか、ある意味、げげな話のうわさ話にまで波及する委員会じゃないので、6月15日の議場で言われた発言のみについて審査をする、しないということ、少し決めていただければと思います。

○委員長（田方芳信君） それは私も先ほどから言ってますとおり、6月15日、それについての進め方でいきたい。いかなければ、これはまたもとに戻ってしまいます。

古嶋委員。

○委員（古嶋津義君） 提案者として先ほども申し上げましたが、野崎伸也君に対する懲罰動議の中の趣旨弁明、会議録に書いてお手元に配付してありますと思いますが、書いてありますとおり、地方自治法第132条、同第133条に抵触をするということで動議を提出をし、それが成立をしたということでもあります。あくまでも、何度も言いますが、懲罰の動議、懲罰特別委員会の中では、この部分の審査を行っていくべきと思っております。

○委員（亀田英雄君） はい、委員長。

○委員長（田方芳信君） 亀田委員。

○委員（亀田英雄君） 2つテープ起こしの分が出されとつとですよ。

○委員長（田方芳信君） はい。

○委員（亀田英雄君） で、古嶋委員の野崎伸也君に対する懲罰動議趣旨弁明っていうともここに出されております。

で、野崎君の不信任動議だけちゅう話じゃなくて、これが出されとるちゅうことができない、ここの議題だと思ひ、確証もなくって言われた部分について私は話をしたいものですから詳しく話をしとつとですよ。確証があったけん出したと。確証なかって断言されたものですけん、そこは違うぞという話なんですよ。

○委員長（田方芳信君） 古嶋委員。

○委員（古嶋津義君） 趣旨弁明のところでも申し上げましたが、確証ということ、確かな証拠ということでございましょうから、その部分については、先ほどどなたか発言がありました、選挙管理委員会、あるいは警察等に告発をされるのが、それが確証だと私は思っております。

以上です。

○委員長（田方芳信君） 亀田委員。

○委員（亀田英雄君） いや、そこは見解の相違のあると思うとですよ。（「見解じゃなか」と呼ぶ者あり） いや、で、——いいですか、続けて。

○委員長（田方芳信君） どうぞ。

○委員（亀田英雄君） 前日に笹本議員に直接議長が釈明ば行われとつと、電話で。何でそげんことばさしたただらうかと思うとですよ。そんなこんなも含めればですよ、その……。

（「議事進行、議事進行」「そぎゃんしたことなかつたでしようが」と呼ぶ者あり） 確証の部分ですけんが。

○委員長（田方芳信君） 増田委員。

○委員（増田一喜君） 先ほどから言われるように、今ここではですよ、野崎議員の発言が懲

罰に値するののかという、そういうことでまずは懲罰特別委員会を設置してほしいとね、懲罰特別委員会を設置してほしいということ議場で動議して、そしてそれが認められて今、懲罰特別委員会が設置されて、今審議してるわけですよ。だから、地方自治法第132条に抵触した部分についてのみ、この中で審議して行って、そしてそれが抵触すると結論づけられれば、あと処分すると。もししなとなれば、処分なんてもうあり得ないでしょうけれども、抵触するとなれば、当然処分という形に流れていくと思う。だから、確証云々とかいうところの議論する場ではないと思うんですけど。先に進めてほしいと思います。

○委員（亀田英雄君） はい、委員長。

○委員長（田方芳信君） はい、亀田委員。

○委員（亀田英雄君） だから百三十何条ですか、それに抵触しないっていう話ばしよとつとですよ。値しないでしょうって。私たちが切り出した話じゃなかつたすもんっていう話ですよ。そういう話なんです。私が言いたいのはですよ。

○委員長（田方芳信君） だから、——よかですか、そういった面ですよ、この懲罰特別委員会という委員会が設置されておりますので、あくまで地方自治法第132条、同第133条、それについての懲罰ちゅうのを、野崎伸也君に対しての懲罰ちゅうのを進めていかなければならないと思いますので。

はい、前垣委員。

○委員（前垣信三君） 済みません。今、増田委員さんがおっしゃったように、まず、懲罰に値するかどうか、これが先決かなという気がせぬでもなくて、そのために懲罰特別委員会を開かれた。値するか値せぬかをまず決めな。そして、値する場合は、どの程度の懲罰なのかという進め方をせぬと、話が先に進まぬと思うんですよ。

だから、懲罰ありきの話ではなくて、懲罰に

値するかどうかをまず委員長さんがお諮りをされて、それで懲罰に値すればどうするかという進め方をしないと、全然進んでいかないような気がします。

事の真偽云々はですね、おっしゃるとおり、個人的ないろんなもんもありましようから、そのあたりは、この委員会で審議するのではなくて、懲罰に値するかどうか、それをまずお諮りになられたらどうでしょう。

○委員（成松由紀夫君） 委員長、よろしいですか。

○委員長（田方芳信君） 成松委員。

○委員（成松由紀夫君） 今前垣委員が、——まあ、そういうわかりやすい話なんですよ。

で、地方自治法第132条に値しない、値しないという主張される方もいるでしょう。ただ、この地方自治法第132条ちゅうのは、議員は、無礼の言葉を使用し、または他人の私生活にわたる言論をしてはならないということなんですよ。

だから、そこの背景がどうだ、誰と誰がどうだった、電話でした、こう釈明した云々というのは、それはですね、言い方、とり方で、説明——状況を説明してる思いで話しても、相手が釈明して言いわけしよるといいうとり方になったりとか、そういういろんな背景ちゅうのはもう置き、——関係ないんですね。そのいろんな背景があっただけ当日しゃべったったいじゃなくて、いや違う違う、当日しゃべったことが問題なんだよ、で、それが地方自治法第132条で、無礼の言葉を使用し他人の私生活にわたる言論はしてはならないってなってるんだよっていうことの話ですから、だから、そこだけをですね、きちんとその当日分、6月15日のその発言分を、地方自治法第132条に該当するのしないのっていう話をしてもらって、そして該当しますってなれば次にまた進んでいただかないと、いかぬと思います。

○委員（山本幸廣君） 委員長、よろしいですか。

○委員長（田方芳信君） はい、山本委員。

○委員（山本幸廣君） 今いろんな議論が出ておりますが、まずはその不信任案の動議、私はもうはっきり言って、その反対をした1人でありまして、懲罰の動議についても、私たちが、私も出しました、懲罰動議ね。

そういう中で、この特別の委員会で、先ほど来意見が出ておりましたけど、まずは背景には市民がおることをですね、しっかりした中で特別委員会というのをですね、この懲罰特別委員会というのは捉えていかないかぬ。

成松委員が言われたように、過去を振り返って現実を思うという中国の言葉ありますけど、だけど過去を、過去を振り返らないで、現実を思うところもあります。そういう中をすればですね、過去をずっとほじくっていけば、今成松委員が言われたように、刑事の問題、告発の問題、刑事告発問題、いろんなところまで波及していく。そういうことになったらどうなるかということは今成松委員言われたんですけども、私はそれは同感です。

ただ、不信任案動議の趣旨弁明だけで、私たちはそれについて反対をしました。文面の中では、その前の詳細についてということとはなかなか私たちは知りません、はっきりな話が。だからこそ、この趣旨弁明については、ある程度この懲罰の委員会で、ある程度その審議というのを、審査をしなきゃいけない。これが懲罰の委員会なんです。で、懲罰動議も一緒なんですね。だからこそ、ある程度結論づけてその懲罰の種類等にも入って、もうすぐそれで、はっきり言ってから、戒告か陳謝かどっかそれでよかたいという問題じゃないと思います。

市民の方々がやっぱしなるほどと、不信任案だなるほどと、そしてまた、否決されたなるほどと、懲罰動議が出されて、今懲罰特別委員会

で慎重な審査をしておられるというのがですね、市民の方々がやっぱし、市民の方々がはっきり納得できるような懲罰の委員会というのを進めていこうというのが、私の考えであります、委員長、そういうような進め方ですね。

最終的には処罰の種類しかありません。それは本会で決定するわけ、あとはもう処罰を決定するだけありますから。そこいらについてはですね、もう少し慎重な審査をしながら、最終的なそののでいきますよということで、お願いをしたいと私は思います、委員長。

○委員長（田方芳信君） わかりました。今、皆さん各自意見が出ております。そのあたりの、先ほど亀田委員、大倉委員がいろいろ言われてきて、それが当たるのか当たらないのか、そういったところを、お一人お一人どうぞ言ってください。意見ちゅうか、「132条に抵触しないか」と呼ぶ者あり）地方自治法第132条のそのあたりのところ、お話をいただければ。

○委員（亀田英雄君） いいですか。

○委員長（田方芳信君） はい。

○委員（亀田英雄君） 一番初めからも話しましたが、非常にですね、いきなりっていう話でもなかろうし、1週間前に申し入れに行ったという話なんですよ。よかですか。

○委員長（田方芳信君） よかですよ。よかです。

○委員（亀田英雄君） だって、やっぱ言わぬば始まん話だもん。

○委員長（田方芳信君） はい、だけん言ってください。

○委員（亀田英雄君） はい。で、そこになって、私たちの正式な申し入れに対して、ここで言えぬ言葉で十分話ば聞いてくれぬという、誘わしたつが議長の話なんです。この人はおかしかばいって、何でこぎゃんなつとかて置いて帰ってきたですよ。で、それに対する正式な答えもなかつじやなかですか。

で、自分でその話ばしとっとなすばい。これはなかつたって話する、確証もなくって言われてですよ、それは、人に罰を与えるような委員会としては、成り立たぬというふうに思うとですよ。

そして、ある程度、議会の長ですから、どこまでがそのプライバシーで言論の自由かという部分も、ある程度踏まえてから話ばせぬばですたい。一方的に四つの内、当てはめればよかつたって話はですね、余りにも乱暴じやなかかなというふうに考えます。

○委員（増田一喜君） いいですか。

○委員長（田方芳信君） はい、増田委員。

○委員（亀田英雄君） あ、こっちでよかつたですか。

○委員長（田方芳信君） ああ、今度はこっち。

大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。今亀田委員のほうから話もあつたんですけども、議長と話をされたときには私は同席をしておきませんので、帰ってこられてからの報告を随時聞いておりました。で、その状況の場面を話をされ、議場のほうで話をしたということで、この内容については、会派のほうでもしっかり原文を見てですね、確認をし合つたところです。はい。

で、やっぱり我々も、この不信任案を出すに当たっては、細心の気を払ってですね、出さなければいけないなということで、やはり事実関係をしっかりつかんだ上ではないと厳しいなという思いを持って出したところですので、やはりそういったところの部分もですね、この調査の中で、——この調査といいますか、委員会の中で、お互いの意見をしっかり事実関係をつかんでですね、話し合いを進めていただければ、非常にありがたいというふうに思っております。

○委員長（田方芳信君） じゃあ、幸村委員。

○委員（幸村香代子君） はい。私はですね、基本的に、やっぱり議会というところは、言論の自由がですね、きちんと保障されなければならないというふうに思うんですけども、表現の自由の保障ということが大前提にあると。

で、そのこととですね、多分今言われている地方自治法第132条、つまりは名誉とか私生活の尊重というものを、やっぱりどう守るかっていうことなんだろうというふうに思うんですけども、でも、そこですね、やっぱり社会的に著名な存在である場合、つまりは議会っていうのはですよ、議員っていうのは、ある意味公的存在だというふうに思うんですよ。

で、その中で、ましてやその議長っちゅうのはその長にあるわけですから、そこでの、社会的に名誉の存在とかっていうことに値するっていうふうに思うんですけども、この意味においてですね、やっぱりこの名誉という部分とか公的活動という部分とか私生活という部分がですね、やっぱり制約を受けていくと。だから全てのことが、地方自治法第132条があるからといって、全てそこで発言——議場の中で発言されることが、この発言が、侮辱的発言であるとか不穏当な発言であるとかっていうことで、処理されてはならないというふうに思うんです。

で、議長っていうのはやっぱり、そういった立場にあるっていうことから踏まえてですね、私は絶対この懲罰にですね、今回の野崎議員のですね、発言はですね、懲罰には値しないっていうふうにですね、思ってます。

○委員長（田方芳信君） ほか、ありませんか。古嶋委員。（「俺は言うたらぬって」と呼ぶ者あり）

○委員（鈴木田幸一君） よかですか。

○委員長（田方芳信君） あ、鈴木田委員。

○委員（鈴木田幸一君） 議会での言論の自由、——言論の自由ちゅうか、言論の保障とい

うのはですね、大事なことだと私は思います。ただですね、やっぱりこの地方自治法にありますけれども、侮辱するっていうとはよくないって思う。

で、この場合もですね、例えば、言葉の——野崎議員のですね、言葉の端々にですね、強い口調が非常にあるんですよ。例えば言語道断って。でも言語道断っていうとはですね、それこそおかしな言い方になってくつとですよ。議長っていうとは、私たちが選んだ議長であつてかり、議員としては、基本守ってやらぬばならぬって私は思うんですよ。

そういった意味から、議長が、例えばこの、隔たった議会運営をして、そして、何かな、お金を使うて公費を使って研修に行った、そのことが、政府要望だから言語道断。しかし、その内容たるものはですね、政府要望じゃないんですよ。政府要望じゃなくて、勉強会並びにですよ、研修を行ってるわけなんですから、これについては、言語道断ちゅう言葉を使っちゃならぬとですよ。

だから、こういった、——もちろん大事なことですよね、お互いにお互いを切磋琢磨せぬばならぬということは大事なことでありますけれども、言葉の遊びしちゃうらぬて思うとですよ。相手を尊重した上で運営をしてもらいたっていうのが私の、議会人としての考え方じゃなかろうかって私は思うんですよ。

で、こういった意味ではですね、こういった言葉を幾つか使つてある部分についてはですね、やっぱり、野崎議員は、重いですね、懲罰じゃないにしても、今後検討してもらいたいちゅう意味でのやっぱ、懲罰の対象になるんじゃないかと思うし、また、特にですね、私的なことに——ことに対してはですね、議場で発言する場合はですね、確たる証拠がないとだめって思うんですよ。

私は、そういった例えばうわさ話とか一方的

な話を聞いて、それをもって議長を追い込めていくような、そういったことを、——追い込めてるのは、私に言わせれば、いわゆるその議長をやめてもらいたいというふうに持っていきやり方なんですけれども、そういったやり方ちゅうとは、よくないって思う。

やっぱりですね、そういった、例えば金銭の授受とかいろいろ書いてありますけれども、こういったものはですね、我々議会が追及する問題じゃなくて、警察当局とか裁判所等が判定、判断する問題であるから、だから日本ちゅうとは三権分立が成り立ってって思うとですよ。だから、自分たちの範囲を超えて相手を攻撃する、その攻撃する内容もしっかり定かでないのに、決定もしとらぬとにですね、議長不信任っていうを出していくのはですね、ちょっと乱暴じゃないかって思うんですよ。

だけん、もし議長不信任ってことを出すならば、もっと違う方法ば考えてもらわぬことにはですね、私たちは、議会、議長ちゅう、議員の代表の議長ちゅうとはですね、推し挙げた、私たちの、自分たちの首を絞めることになるような気がします。

だからこのことについてはやっぱり、野崎君に対しては重い懲罰じゃなくて、ある程度考えてもらいたいって意味での懲罰は必要かなって私は考えます。

以上です。

○委員長（田方芳信君） 増田委員。

○委員（増田一喜君） 先ほど何か、その背景みたいなことを一生懸命言われとる部分がありましたけれども、ここの懲罰特別委員会はあくまでも、そういうことがあったとしてもそれは議場に持ち込むべきことではない、それを持ち込んできてこのように発言されてるから、それについて懲罰動議が出されて、そしてそれは可決され、そして今ここにあるんですよ。設置されて、今、懲罰特別委員会をね、開催してるわ

けでしょ。だから、あくまでも地方自治法第132条に抵触した、そこだけを捉えていかなければ。

この不信任案を出した、それが悪い、じゃないんですよ。あくまでも発言を議場で、これに抵触した発言をされたということで、今懲罰特別委員会にかかっているんだから、私は、この1点だけを取り上げても、やはり懲罰に値するんじゃないかというふうには考えます。

○委員長（田方芳信君） 亀田委員。

○委員（亀田英雄君） 済みません。1週間前の話は、敬意を表してですね、私的な問題は全然言わぬがまま持ってったんですよ。そこは御理解いただきたい。私たちが出した話じゃないと。

○委員（成松由紀夫君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） はい、成松委員。

○委員（成松由紀夫君） だからですね、その背景云々っていうのはですね、もうあんまり話すことじゃなくて、先ほど鈴木田委員からあったように、この会派視察の政府要望は言語道断、まずここの認識がまず、憶測ですよ。正式には、国会議員団に要望活動に行って、で、その中で、向こうにおられた官僚の方と会ったということで。政府要望ちゅうのは、通常、市長とともに行くのが政府要望なわけですよ。

だから、こういう部分もしっかり確認されていない未確認的なことを話しであったり、結局その背景がどうでこうでって言い出せばですね、もうそれはそれぞれみんな考え方があり、その流れというのはあるんですよ。

だから実際問題言うて、じゃあ橋本議長の部分ですよ、それは幸村さんが言いなる著名な方であるけん、それはいろいろ日ごろからあるよねって、それは歴代議長の皆さんもみんなそうでしょうけど、やっぱりほら、脅迫まがいの目に遭ったりですよ、怪文書が入ったり、やっぱりいろんな、子供さん方もいる中で、やっぱり苦

しんどつとらしたりしとつても、やっぱそういうのは見せぬで、きちんとやられてるわけですね。

だから、そういうのに問題があれば、もう警察、裁判、選管、そういったところで議論する話であって、要はシンプルに、憶測の認識で不信任で出しなつても、我々はそうじゃないという信任で出してですね、信任可決されてやつとるわけですから、もう15日の、そのときにいろんな思い込みがあつて、背景云々ちゅうのはもうどうでもいいわけですね。

15日に何をしゃべつたんですか、で、この発言が地方自治法第132条にひっかかつてますよつていうことで、しっかりシンプルに裁定していかないと、それはもう言いたい放題に本当なつてしまいますので。背景だ何だという情状的にしようたらですね。お願いします。

○委員（亀田英雄君） もう一ついいですか。

○委員長（田方芳信君） はい。

○委員（亀田英雄君） 言いたい放題じゃなくて、それが真実だったか真実じゃなかつたかということば調べぬと。（「それは議場で話すこと……」と呼ぶ者あり）

と、委員長、済みません、もう一つ、1点。もう言わぬけん。政府要望、あれは、橋本議長のフェイスブックに、自分みずから政府要望つて書いとらすけん。私たちは市民の方から大分言われた、あんたどま何をしようかと。だけん見知つとつとですたい。確たる証拠なかなんだって、だけん確たる証拠のいろいろあるつていう話ばしようつとるに。あつとですよ。自分で出しとらすと。政府要望つて。おかしかろうつていう話ですよ。

○委員（成松由紀夫君） いや、よかですか。

○委員長（田方芳信君） ああ、成松委員。

○委員（成松由紀夫君） FBに、その政府要望という文言が橋本さんにあつたにしても、それは政府に要望したんじゃないでなくて、官僚の方が

いらしたので、直接政府関係者の方に要望ができたというニュアンスでしょうから、だからその、FBのその部分がどうのこうのつて言われる類いのもんじゃないんですよ。だから正式名称は……。 （委員幸村香代子君「いやいや、それはおかしい」と呼ぶ）正式にはそれは、いやいやだからげなげな話で、言う問題じゃないし、FB——もうフェイスブックの話をここで話すことじゃないと思います。とにかく15日の話でシンプルにやつてください。

○委員長（田方芳信君） 増田委員。

○委員（増田一喜君） とにかくですね、そういう背景とかもう、それを議論する場じゃないんですよ、ここは。（「そう」と呼ぶ者あり）地方自治法第132条に抵触してるのかしてないのか、それをはっきりさせないことには、先に行けないから。なぜそこで背景の問題とかそういう話ばかりになるんですか。もっと本質的な、地方自治法第132条に抵触してるのか、そこを議論していかないと、いつまでも時間たつだけですよ。そこをもう進めていただきたいと思います。

○委員長（田方芳信君） ほか、ありませんか。

○委員（村川清則君） 賛成。全く同じです。

○委員長（田方芳信君） 村川委員。

○委員（村川清則君） この場というのは、警察署でも裁判所でもないわけですから、あくまでも議場で発言についての審査としますので、進めていただきたいと思います。（「議事進行」「132条」と呼ぶ者あり）

○委員（山本幸廣君） 委員長、いいですか。

○委員長（田方芳信君） はい。

○委員（山本幸廣君） 私は、さっきから言うんですけども、出したほうなもんですから、要するに。ある程度やっぱ相手の背景というのはやっぱ、我々はやっぱ知るべきかと思うんですよ。どこまで背景を知るかということですね。

言語道断というこの4つの文字を分析をずつ

としてわかるように、何かの理由があるからだめなんだということ、言葉についてはだめなんだということですから、それについては、何かの確たる証拠と言うといかぬですから、何かあったから向こうは、はっきり言ってから今言われよるわけですが、はっきり言えば、ある程度の私はやっぱ審査、先に審査はしてですね、そしてある程度、——まあここはもう委員長が小会、もう随時小会してもよろしいわけですから、ですね、していただいて、やっぱその意見が合わないときには委員長が調整して、そしてその懲罰の、何回も言いますけども、これに該当するんだということに納得していただいて、その懲罰の事由と、それから、さっき言ったような決定をどういう決定をするかと、戒告にするのかどこにすんのかということまでですね、私はやっぱ慎重な審議をしていただきたいというのが、先ほどから言っているとおりなんです。

だから、小会もしていいですよ、委員長。

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。（「議事進行」と呼ぶ者あり）

古嶋委員。

○委員（古嶋津義君） 先ほど、3名の方から、地方自治法第132条には適さないのじゃないかという、それに沿ったような趣旨の発言がございましたが、私はあくまでも、その提出者として、地方自治法第132条に触れるという思いを持っております。そのための地方自治法であろうと思いますし、法の重みというのは、しっかりと議論しなければならぬと思います。

まあ、背景等々もありますが、ここはあくまでも背景ではなく、私が出したのは、この地方自治法第132条にあります、他人の私生活にわたる言論はしてはならないということでありますので、その辺のところを審議をしていただきたいというふうに思っております。

○委員（成松由紀夫君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 成松委員。

○委員（成松由紀夫君） もう1回最後に確認ですが、今本会中ですよ。

○委員長（田方芳信君） ええ、これ本会です。

○委員（成松由紀夫君） はい。で、この中でまた、あんまり迷路にはまり込むようなですね、背景云々っていうくたりの中での発言中に、不穏当な場合があったら、それは該当するわけですね。

○委員長（田方芳信君） はい、そうです。

○委員（成松由紀夫君） 不穏当発言になるわけですね。はい、わかりました。

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。亀田委員。

○委員（亀田英雄君） 背景は言うなって言われてもですたい、その背景ば話さねば、何遍も言いますが、真実だってわからぬでしょう。で、その辺のある程度の真実という部分をせぬと、この会議の決定もいかないし、その辺の、どげんされますか。

○委員長（田方芳信君） そこは、ある程度あれでしょ、ある程度のお話はされても結構です、それは。まあ確かに、それは亀田委員が言われるとおり、それなりのことがあったんだろうと思いますから、そのあたりは言っていただいても結構です。

私は、それがまた懲罰特別委員会にどうのこのじゃなくてですね、いうことで、そして最終的にどうするかちゅうことをここで決めていきたいと思っておりますので。（委員成松由紀夫君「いや、委員長、15日に……」と呼ぶ）うん、だけん……。 （委員成松由紀夫君「その日に限定してちゅうことですよ」と呼ぶ）

だけんあくまで、あなたたちの言葉は、先ほどしっかりと聞かせていただきました。気持ちの中でですね。そういった3名の方、お話を聞かせていただきまして。私たちは、その部分

ちゅうのは知らない部分であります。そこの中に私たちが入ってませんので、で、そういった中で、出たときに、こういった議会の中でこういう問題が出てきて、今この、6月15日になって、この、きょうに至って特別委員会が設置されて、進んでるということでございますので、こここのところを今からどういう方向へ持っていくかちゅうのは、もうちょっと、ちょっと議論でも必要かと……。

○委員（成松由紀夫君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 成松委員。

○委員（成松由紀夫君） あのですね、結局、背景があつてどうのこうのがあつたにしても、そういう思いがいろいろとあつて、で、差別発言とか侮蔑発言が出たとするんですよ。まあ出るとしますよね。で、ああ気持ちはわかるなつて、いろいろ背景あつとんな、でも、出たその発言は取り消せないのが議員なんですよ。

だから、そのどうのこうのちゅうよりも、その日に出たその発言についてのみを限定されて進めていかないと、進まないと思いますので、よろしくお願ひします。

○委員長（田方芳信君） 前垣委員。

○委員（前垣信三君） はい。大分前から手挙げとったのですが、忘れてしまいました。（笑声）

要は、多数決、大多数で懲罰特別委員会を開こうという議会の決定があつて、懲罰特別委員会が開かれたわけですね。なかなか難しい審議で委員長さん大変だと思いますが、この委員会は、もう地方自治法第132条に該当するから、どういう処置をするかという委員会なのか、そうじゃなくて、懲罰に該当するのかどうかという審議をされるのか、どちらなんですか。まずそれをお尋ねしましょう。

○委員長（田方芳信君） 当然これはもう、懲罰に値しますので。6月15日の、この懲罰特別委員会ちゅうのがもうできた時点です、

地方自治法第132条に値しますので、それで、本来進めていかなければならないと思っております。

○委員（前垣信三君） はい。済みません、もう、ちゅうことはもう、どういう懲罰の種類にするかを決めるだけの話なんですか。決まるとおっしゃるなら、懲罰に値するじゃないかとおっしゃるなら、なら、懲罰に値すつとだけん、どれにしようかという話なんですか。

○委員長（田方芳信君） そうです。

○委員（前垣信三君） そうじゃなくてね、私はあくまでも、懲罰特別委員会をつくつて、懲罰に該当するかどうかを判断をしようじゃないかと、で、その結果でどうしようじゃないかという委員会だと思つとですよ。

で、もう一つ言わしてもらつと、いろいろ個人的な非難等があつたのが、その地方自治法第132条の中のプライバシーに関することなのかどうか、いやいやそれはプライバシーじゃないかですよと言へば該当せぬけど、プライバシーなのかが一番問題だと思つとですね。まあ政府要望かれこれはこっちに置いといても、あそこで発言されたことがプライバシーなのか。中身はどがんとよかですよ、プライバシーなのかが一番問題。プライバシーならば、それは懲罰にかかつとですよ。何も言わぬでも。中身は別にして。そうでしょ。プライバシーに当たることを発言されれば、中身はどぎゃんでもよかですよ、懲罰に対象なつとですよ。そうでしょ、委員長。（「だけどこれ……」と呼ぶ者あり）だけん、もうそういうのが対象になつとだけ、だけん、地方自治法第132条に従つてどぎゃんするかを決めなつてよかつたじゃないか。そうでしょ。

で、あなたがそぎゃん言うもんだだけん、地方自治法第132条にたい、もうその間違いなく懲罰に値する、いやそれは懲罰に値すんじゃないか、プライバシーなのかどうかですよ。プラ

イバシーならば懲罰やけん。でしょ。中身は何でんよかったです。もう言いなはったことは、プライバシーに当たったでしょ。

○委員長（田方芳信君） 当たります。

○委員（前垣信三君） ほんならそれ、地方自治法第132条に該当するわけですか。

○委員長（田方芳信君） そうです。だからこそ、今こういう委員会ができてるわけですから。

○委員（前垣信三君） その委員会は後出しだけ。ここで皆さん方が、プライバシーに当たるかどうかを皆さんで確認すりゃよかとだけ。プライバシーに値すれば地方自治法第132条ですけん。そうでしょ（「そうです。当たったですたい。議事進行お願いします」「審議してからもう採決」「議事進行よかです」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） はい、亀田委員。

○委員（亀田英雄君） で、そこはですね、当たらぬとじゃなかですかという話ば一生懸命さつきからしよる。（笑声）

○委員（前垣信三君） どげんするか。しかし、当たる、——あ、済みません。はい。

○委員長（田方芳信君） はい、前垣委員。

○委員（前垣信三君） 当たる当たらぬはですね、いろんな話があるけど、先日どうのこうのとかおっしゃるけど、中身の、——中身は別ですよ、中身は別だけど、プライバシーに当たるかどうか、もうこれが一番なんですね。

で、そこが、こちらはそのプライバシーに当たらぬとおっしゃる。ならプライバシーは何なのかちゅうことまで討議していかぬと、話が進まぬじゃなかですか。だから、委員長さんがプライバシーに当たるかどうかの判断は、どう思われとるのか、ここが一番大事なんですね。

○委員長（田方芳信君） じゃあ、ほかありませんか。

○委員（増田一喜君） よかですか。

○委員長（田方芳信君） うん。

○委員（増田一喜君） 何遍も言うんですけどね、地方自治法第132条ですもん、まあ言論の自由とかそういうのあるかもしれないけれども、やはり、この地方自治法第132条で言い過ぎちゃいけないということを制約してるわけでしょ。その中には、無礼な言葉を使用しですね、——会議または委員会において、議員は無礼な言葉を使用し、または他人の私生活にわたる言論をしてはならないというふうにして制限してるわけでしょ。

で、その背景と言われる件、それはそっちで話されてるけれども、その背景があろうと、6月15日の議場で趣旨弁明のときに発言されたその言葉だけを取り上げて、背景のことは何も、懲罰に値するとかいう、そういう判断で懲罰特別委員会を設置し、——を動議したわけじゃないんですよ。あくまでも、発言されたその言葉についてのみ、懲罰というふうな形で、今の懲罰特別委員会を設置してもらってるから、もうその言葉だけ、地方自治法第132条のこの件についてのみ進めていかれないと、いつまでも、もうさつきから言ってる背景背景背景で、とうとここのこれに抵触してるのかしてないのかっていう話にも行き着きもしません。

私は、抵触してるということで、懲罰特別委員会設置の動議を出したんだからですね、署名したちゅうことですから。

○委員（成松由紀夫君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 成松委員。

○委員（成松由紀夫君） はい。もう、何かそういう形、皆さんの御意見等はある程度出たと思うので、もう採決に行かれていいと思いますので。

○委員長（田方芳信君） はい。

○委員（亀田英雄君） 委員長、委員長。

○委員長（田方芳信君） ああ、亀田委員。

○委員（亀田英雄君） あんまり早うなか。採

決に持っていき、きょう1回の会議で採決まで持っていきなつとですか。（「それはそうでしょう」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） 行けるところまで行きますよ。

○委員（亀田英雄君） いや、もう少し議論を重ねてほしかと思うとですが。（「議論しても……」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） ちょっとこれ、どうするかな……。

○委員（亀田英雄君） まだ、1回。背景の話からもういきなり採決……。

○委員長（田方芳信君） ちょっ、ちょっと待って、小会します。

（午前11時17分 小会）

（午前11時34分 本会）

○委員長（田方芳信君） 本会に戻します。

この件につきましては、今から、懲罰特別委員会に出た云々で、文言、言葉の流れが、それが、発言の言葉が、それに違反をしたのかしないのかということで、採決。

○委員（成松由紀夫君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） はい、増田、——成松委員。

○委員（成松由紀夫君） はい。もう、この6月15日の本会議の中での野崎議員の発言、この会派視察において政府要望を行った行為は言語道断という文言、それと、一方的に自身の身辺問題云々、それと、金品などを授受された政治資金規正法に抵触する云々、個人的な身辺問題の釈明に終始した云々、この辺はですね、全て、地方自治法第132条の私生活ですね、132条の他人の私生活にわたる言論であると思っておりますので、抵触するということをお願いしたいと思います。

○委員（亀田英雄君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） はい、亀田委員。

○委員（亀田英雄君） 委員長、今何ば、どこまで指示しなつたですかね。

○委員長（田方芳信君） 意見、違反——違反じゃない、野崎議員が言われた言葉が、地方自治法第132条に当たるのか当たらないのか。

○委員（亀田英雄君） を、採決するの。

○委員長（田方芳信君） その採決。懲罰に当たるのか当たらないのか。

○委員（亀田英雄君） について意見を述べよるですよ。ね。（「132条は当たるか当たらぬか採決するっていう話」と呼ぶ者あり）

はい。

○委員長（田方芳信君） はい、亀田委員。

○委員（亀田英雄君） もう何遍も同じ話ばすると——ことになつとですが、背景なくしては語れない話なんです。私たちは3つ正式な要望を持って要請をした。で、それについて、自分の私的な問題を出されたほうは議長なんですから、それを描写しただけの話です。

で、不信任案を全てを否決されるというのであれば、不信任案出されぬですもん。それは言論の自由とか、これは絶対これひっかかりますよ。不信任案全てが懲罰動議というあれば、あり得ないって思う。だから、懲罰動議は、それに当たらないって私は思います。（「不信任案に対する懲罰ではない」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） では、いろいろと意見も出てきました。この件につきまして……。

○委員（山本幸廣君） はい委員長、ちょっとよろしいですか。

○委員長（田方芳信君） はい、山本委員。

○委員（山本幸廣君） 慎重審査をしようというのが、私が冒頭も話をしましたが、いろんな意見が出て、根拠があつていろんなが問題が出て、その問題というのを今、地方自治法第132条にかかるかかからぬかの議論をしとる中でありますので、強行採決というのは私は、まあ多数決の原理ですからいいわけではありますが、

ある程度の意見が整い、お互いに合意はできませんからですね、これはもうですね、反対と賛成以外ないわけですから、その中で、委員長の見解として、ここら辺ならばひとつ、どうしてもその採決を持っていかぬかぬという中のその理由の中で、委員長が採決されるなら採決されるということで私賛同いたしますが、強行な採決するのはもうやめていただきたいというのが私の願いです。これだけはですね。

ある程度意見が出て、そろって、ある程度理解をみんなでしょうと。みんなできません、賛成と反対ですから。それについては委員長の一つの見解というのをですね、しっかり副委員長と相談しながら、その辺の最終的な判断に持っていっていただきたいというのが、私の考えです。これはもうお願いしておきます。

○委員（亀田英雄君） もう一つ委員長。

○委員長（田方芳信君） はい、亀田委員。

○委員（亀田英雄君） もう少し時間をかけて進めていただきたいと、お願いしたい。

○委員（成松由紀夫君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 成松委員。

○委員（成松由紀夫君） 要するに、また4つ、4つ決めていかなんことも出てくるのでですね、時間がまたかかってくるので、懲罰に値する値しないは採決をしていただいて、で、そこからまた先のこともまたいろいろと、意見がどうしても賛否両論出てくるわけですから、相まみえないところがあるので、ですので、そこはもう速やかな進行お願いします。

○委員長（田方芳信君） じゃあ、いろんな方々もたくさん意見出ましたので、これが委員会条例に、発言がですね、違反する——するかしらないかということで、採決かな、をしたい……。

あ、前垣委員。

○委員（前垣信三君） 確認です。どっちの味方をするわけじゃなかったですが、基本的に、今から採決されるのは、その地方自治法第132

条の中の個人的なプライバシーの問題に相当するかしないかの考えでいいんですか。

○委員長（田方芳信君） そうです、はい。

○委員（前垣信三君） そこだけを確認をします。

○委員長（田方芳信君） はい。（「先に進めてください」「そこだけじゃなからう」「そこだけ」「委員長、小会」と呼ぶ者あり）

小会して。

（午前11時39分 小会）

（午前11時40分 本会）

○委員長（田方芳信君） 本会に戻します。

お諮りします。

地方自治法、会議規則並びに委員会条例に…（「委員長、委員長、今、前垣さんの質問にたしか答えとらぬ」「小会で答えた」「会の本会議で答えんもらわぬば」「議事進行」「小会いかがですか」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） うん、小会。

（午前11時41分 小会）

（午前11時41分 本会）

○委員長（田方芳信君） 本会に戻します。

○委員（前垣信三君） 戻ったんですか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） はい、前垣委員。

○委員（前垣信三君） はい。どなたの擁護もするわけではなかったですが、条文そのものによると、個人的な云々、プライバシーに関する発言があったかななかったかで、この該当するかしらないかが決まると思うんですね。

で、発言の内容が本当であればどういうプライバシーになることも発言ができるという話につながりかねぬもんですから、基本的には、事の実偽より、プライバシーが、——の内容が発言をされたかどうかの審議をされるのであるかどうかの確認をしたいと思います。

○委員長（田方芳信君） プライバシーに当たるか当たらないか、発言のそういった面で審議したいと思っております。

それでは、お諮りします。

地方自治法、会議規則並びに委員会条例に違反した発言があったと認めるに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（田方芳信君） 挙手少数で——（「多数」と呼ぶ者あり）多数で、多数と認め、この件につきましては違反した発言と決しました。

それで、それでは、意見も出尽くしたようでありますので、野崎議員に対し懲罰事犯として懲罰を科すべきかどうか、また、懲罰を科すすれば、地方自治法第135条に定めるいずれの懲罰を科すべきかについて、御協議願います。（「これはさっき説明した、4つあったたいな」と呼ぶ者あり）

○委員（前垣信三君） はい。

○委員長（田方芳信君） はい、前垣委員。

○委員（前垣信三君） はい。なかなか難しい話ですが、なるべく御本人さんたちに、後々いろんな問題が起きないように、軽度な懲罰をお願いしたいと思います。

○委員長（田方芳信君） ほかに。

○委員（成松由紀夫君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） はい、成松委員。

○委員（成松由紀夫君） 当日、発言後ですね、先ほど古嶋委員からありましたが、陳謝及び文言の訂正等々の申し入れがあって、それが受け入れられずに遅延があって、こういう本会に至ってるというふうに私は認識しております。

ですので、やはりここはですね、厳罰をもっていくべきではないかなと思いますので、除名も含めたところで考えていただきたいというふうに思っております。

以上です。

○委員（亀田英雄君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 亀田委員。

○委員（亀田英雄君） 先ほどから遅延、遅延という話が出とつとですが、遅延では決してない。いろんな協議を重ねた中の話ですから、その発言は撤回していただきたい。決して遅延じゃなかです。遅延ってどういう意味ですか。

○委員（成松由紀夫君） はい。

○委員長（田方芳信君） 成松委員。

○委員（成松由紀夫君） いや、遅延だと認識しておりますんで。

○委員長（田方芳信君） 亀田委員。

○委員（亀田英雄君） 遅延ではありません。その認識では、それはもう前へ進まぬですばい。

○委員（成松由紀夫君） 認識が違いますよ。

○委員（亀田英雄君） 遅延じゃなかですけん。いろいろ協議ば重ねよったところですけど。何で遅延だって言われつとですか。

○委員（成松由紀夫君） おくれたけん遅延ですが。

○委員（亀田英雄君） いやいやいやいや、それはちょっとおかしかでしょう。そしてそげん話じゃなかでしょうが、大体今の話は。

○委員（成松由紀夫君） はい。

○委員長（田方芳信君） 成松委員。

○委員（成松由紀夫君） 少なからず、協議だろうが何だろうが、おくれたことは遅延だと私は認識しております。それ以外はないと思っております。

○委員長（田方芳信君） 亀田委員。

○委員（亀田英雄君） いや、それは違う、絶対違う。遅延って、わざとしたごたる雰囲気じゃなかですか。そういうことじゃなかですよ。一生懸命協議ば重ねた中でのことですよ。そういうことで、遅延などという言葉で表現していただきたいくない。削除していただきたい。

○委員長（田方芳信君） ほかに。

大倉委員。

○委員（大倉裕一君） 亀田委員と同感なんですけど、遅延ではないということははっきり申し上げたいというふうに思いますし、遅延に対する懲罰ということではなかったと思います。プライバシーのことに關しての懲罰ということでの、先ほどの採決の結果だったというふうに思いますので、その点にしっかりと絞っていただいての進行をお願いしたいと思います。

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。

○委員（亀田英雄君） では委員長。

○委員長（田方芳信君） はい、亀田委員。

○委員（亀田英雄君） 今の遅延の発言は、どういようにされるとですか。

○委員（村川清則君） ちょっといいですか。

○委員長（田方芳信君） はい、村川委員。

○委員（村川清則君） 認識の違いというか、個人の見解の違いなんじゃないんですか、その遅延と感ずるか感ずらないかっていうの。（「委員長、よか整理したら」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） ま、意見の違いちゆうことですよ。

○委員（山本幸廣君） 委員長、よろしいですか。

○委員長（田方芳信君） はい、山本委員。

○委員（山本幸廣君） この委員会では私と古嶋委員が一番長いわけなんですけど、成松委員が言われたその遅延というのは、私は取り消すべきだと思う。

長い歴史の中で、それはもう時間延長してからずっと、もう理由があってから時間延長どんどんやりました。12時ぐらいまでやった、過ぎたこともありますけども、今の発言については、私は、成松委員が将来のためにも、どんなにその解釈が違おうが、私は撤回したほうがいいと思う。

○委員長（田方芳信君） ほかに意見ありませんか。

んか。

亀田委員。

○委員（亀田英雄君） 解釈の違いと言われれば全部解釈の違いになりますけど、そこだけはやっぱり受け入れがたい。遅延ちゆう話じゃなかです。そこは削除していただきたい。

○委員長（田方芳信君） ちょっと今、小会します。

（午前11時47分 小会）

（午前11時54分 本会）

○委員長（田方芳信君） 本会に戻します。

これからの委員会は1時から開催したいと思いますので、よろしく願いをいたします。

（「はい」「午前中の委員会はこれで終わり」と呼ぶ者あり）終わります。

（午前11時54分 休憩）

（午後1時01分 開議）

○委員長（田方芳信君） 休憩前に引き続き委員会を再開します。

先ほど、午前中の成松委員の発言については、双方の見解の相違という認識で、本特別委員会の懲罰事犯の審査に戻りまして委員会を進めます。

○委員（亀田英雄君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 亀田委員。

○委員（亀田英雄君） ちょっと詳しく、具体的に説明ください。このまま何もなかったことかどうか。

○委員長（田方芳信君） そうです。もうこのまま、双方の見解の考え方の違いがありますので、まず。

亀田委員。

○委員（亀田英雄君） 大変申しわけない、納得できぬとですよ。遅延というと、わざとおくらかしたちゆう話じゃなかですか。そこはやっぱり侮辱的な発言ですよ。さっきの地方自治

法第132条とか同第133条と同じ種類の話じゃなかったですか。そう私は思いますが、発言の撤回を求めます。

○委員（成松由紀夫君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） はい、成松委員。

○委員（成松由紀夫君） おくれたのはおくれたっていう事実行為だけを言っておりますので、わざとおくらかした云々とか、そういうことの発言は何もしておりませんので、おくれたという行為だけを遅延と言うのか言わないのかは見識の相違だと思います。

○委員長（田方芳信君） 亀田委員。

○委員（亀田英雄君） 遅延というのを、何か引っ張ってもらえばよかばってん、そげんした話ですよ、遅延は。（「小会しようか」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） 小会します。

（午後1時02分 小会）

（午後1時05分 本会）

○委員長（田方芳信君） 本会に戻します。

さっきの言葉の遅延に、亀田委員のほうからありました遅延の、——という言葉についてです、事務局のほうから説明を求めます。

○議会議務局長補佐兼総務係長（梅野展文君） 長い考えなどを行い、わざと事態をおくらせることというふうにございますけれども、これはウィキペディアにございます。

以上です。

○委員（亀田英雄君） はい、議長、——委員長。

○委員長（田方芳信君） 亀田委員。

○委員（亀田英雄君） だけんですたい。そういう、おくれただけたいて話で言葉が使われたという表現だったのですが、その遅延という言葉の意味の確証もなくですよ、ここにあっじゃなかですか。確証もなく侮辱的な発言をされたて、これ、あつですばい、懲罰動議の一節にあ

るとに該当しやせぬですか。速やかに発言を撤回を求めます。

○委員（成松由紀夫君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 成松委員。

○委員（成松由紀夫君） おくらせた行為を私は言ってますので、そこは見識の相違ですので、撤回しません。

○委員（亀田英雄君） いや、おかしかですばい。

○委員（成松由紀夫君） いや、一緒です。

○委員（亀田英雄君） それはもう懲罰動議だもん。

○委員長（田方芳信君） これは、ついでには、本委員会については、もう見識の相違ですよ、これはあくまで。どこまで行っても、やはり一緒ということであって、考え方の違いが全くありますので、どこまで行っても進まない。

○委員（亀田英雄君） なら、懲罰の中身もですたい。見識の相違だもん、そんなら。どこまで行ってもそうだって言うばってん。だけん具体的な証拠を出してよかですかって思うとばってんが、遠慮しとつとこですよ。小会してしもうて、今までの具体的な話を知らんらば出してもろうてよかんばってんが。（「先を進めて」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） 先に、先に進まぬと、このままじゃあどうにもならぬですよ。

○委員（亀田英雄君） だってですね、今もまた遅延って言われてですばい、どげんして審議に応じられるですか。

○委員長（田方芳信君） でも結果的にはもう……。

○委員（亀田英雄君） いえ、それは委員長、おかしかよ。

○委員（幸村香代子君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） あ、幸村委員。

○委員（幸村香代子君） いや、先ほどのですね、その遅延っていう発言の中にですね、結局

その懲罰、これに、その遅延までが含まれると、だから除名だというふうな発言があったはずなんです。だから、それは違うだろうという話も含めて、やっぱりその遅延ということについては、やっぱり発言の撤回が必要じゃないかというふうに思うんですけどね。

○委員長（田方芳信君） あくまでそこところはやはり、どうしても考え方の違い、とり方。

○委員（幸村香代子君） でも、いいですか委員長。じゃあ、先ほど、懲罰の範囲については、ここの発言、委員会のときですね、議場での発言に対しての懲罰っていう確認をしましたよね。で、それに対して、その遅延までがそこに含まれるというような発言をされてるわけだから、それは、委員長はどんなふうに思われるんです。

○委員（成松由紀夫君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） はい、成松委員。

○委員（成松由紀夫君） いや、遅延も含まれるというよりも、この、この発言に端を發して、そして議会がおくれた、で、おくれた部分もあると。で、そのおくれた間に、うちの会派代表も含めて、議長のほうに申し入れをしますよね、発言の撤回及び謝罪と。っていう申し入れをしても、それを聞き入れてもらえない中ずっとおくれていったわけですよ。だから、おくれていったことも、本来速やかにいかなかったわけですよ。

だからそれが、私は遅延だという話ですから、それはもう見解の相違ですよ。平行線だ、もう、ずっと考え方が違うけん。それだけの話ですけどね。だから除名じゃないんですかって、その経緯も含めてという。

○委員（幸村香代子君） いえ、だけん……。

○委員（成松由紀夫君） それは私の、私の考え方を、さっき話した。

○委員長（田方芳信君） 幸村委員。

○委員（幸村香代子君） いや、それは何か大きな違いがあるでしょう。だけん、そういうその経緯まで含めてというふうに認識をされるということ自体に問題があるんじゃないんですか。

○委員（成松由紀夫君） いやだから、——はい、委員長。

○委員長（田方芳信君） 成松委員。

○委員（成松由紀夫君） だから、その、そちらの皆さんが言われるように、背景背景という話になれば、その経緯の背景を私は話したただけであって、含む含まないはまた皆さんで話せばいいことで、そういう背景がありましたよね、当日この言葉を發してからのもという、私は先の話ですよ。で、改革クラブの方は、そっから後の話で、確証がないから云々かんぬんというような話をされるけれども、私はその、その言葉を發してからおくれたこととか、その6月15日の発言からこっちの話をしてるんですね。それが問題だと。だから、平行線にしかならぬじゃないですか。

○委員（幸村香代子君） いや……。

○委員長（田方芳信君） だけん……。

あ、亀田委員どうぞ。亀田委員。

○委員（亀田英雄君） あ、私ですか。いや、見解の相違で済まされるごた話じゃなかですか。紹介議員あたりも入らしたじゃなかですか、こうやってせぬかて。そっば一人聞けぬだけでしょうが。何ですか、そうやって、遅延もあって、それ懲罰の対象になるかって話ですよ、今の話は。それは違うでしょう。（委員幸村香代子君「いや、違う、そう」と呼ぶ）（委員成松由紀夫君「いや、だけど、こと、——はい、委員長」と呼ぶ）慎重審議というとは……。

○委員長（田方芳信君） 成松委員。

○委員（成松由紀夫君） だから要するに、その言葉を發してからですから。野崎議員が6月

15日の、それから、発してから部分を、私は自分の考えを言っただけなんです。おくれたのは事実なんです。速やかにいってないでしょう。

○委員（亀田英雄君） はい。

○委員長（田方芳信君） 亀田委員。

○委員（亀田英雄君） おくれたのは事実だったとしても、遅延ではない。

○委員（成松由紀夫君） 事実ですね。

○委員（亀田英雄君） そう、それはみんな大きな差だもん。何でそこが懲罰の動議まで入っていくような話ばすつとですばい。おくらかしたじゃなかって。

○委員（成松由紀夫君） これ、いつまで話しても一緒です。

○委員長（田方芳信君） これを、これを…

○委員（亀田英雄君） もうそこは、委員長、修正してもらわぬば。大事よ、そこは。

○委員長（田方芳信君） 古嶋委員。

○委員（古嶋津義君） 先ほど成松委員から遅延の発言がありました分、今事務局から説明がありました。その遅延に対する今のような認識はなかったということ。

○委員（成松由紀夫君） そうです。

○委員（亀田英雄君） ならあれですばい。

○委員長（田方芳信君） はい、亀田委員。

○委員（亀田英雄君） 認識がなかったちゅう言葉で、何でん言うていこうちゅう話ですか。それは、俺は、私はこげんつもりじゃなかったで何もかんも進めていくとなら、何でん、それは、聞かぬですばい。

言葉って大事です、やっぱり。誰が見てもおかしくない言葉で表現してですばい、していかぬと。（委員成松由紀夫君「終わらぬですよ」と呼ぶ）

○委員（大倉裕一君） はい。それこそ……。

○委員長（田方芳信君） 大倉委員。

○委員（大倉裕一君） それこそ、一言おわびがあって当然のことだと思います。認識が誤っておりましたと。（「とり方がもともと違うしな」と呼ぶ者あり）

○委員（亀田英雄君） いやいや、とり方じゃなくて、結局わざとっていうあんじゃなかですか。そういう意味で使われたと。おくらせたのはおくらせただけでよかった、遅延とまで言うだけ。遅延というとは、今あそこで読んだとおりの言葉で、それは不的確でしょ。

○委員（増田一喜君） 委員長、委員長。

○委員長（田方芳信君） はい、増田委員。

○委員（増田一喜君） 今亀田議員——亀田委員が言われるように、遅延の文言については、意図的におくらしたことはないということ。ちゃんと亀田委員は言われてるから、それは議事録に残るわけでしょ。成松委員が、そこんところの認識としては、おくれたことの実を捉えて、その深くまでは言っていないけれども、遅延ちゅう言葉を使ったちゅうだけの——だけど違いますよちゅうことをきちんと話されとるから。これ、どこまで行っても一緒になつてきやせぬかなと。

○委員長（田方芳信君） 亀田委員。

○委員（亀田英雄君） じゃ、そんならそんごつ話しばしてもらえばよかじゃなかですか。遅延という4つ、漢字ば取り消せばよかっただけ。違ふとそぎやしこの話ですたい。おくらしたのは、そのおくれた事実は、それはおくれた事実はあつただけど、遅延じゃなかですけん。（「さっきからそれは釈明されとるけん、そんならそれとしていいんじゃないですか、釈明されたことは」と呼ぶ者あり）いや、それは違ふ。そこまで……。

○委員長（田方芳信君） 亀田委員。

○委員（亀田英雄君） そこまで、懲罰の対象になるやの話もすつじゃなかですか。そこはやっぱ大事なところですよ。新たにひつついた話

ば。

○委員（山本幸廣君） はい委員長、よろしいですか。

○委員長（田方芳信君） 山本委員。

○委員（山本幸廣君） 今、事務局サイドでその遅延をですね、辞典開いてからお聞きした中でね、わざと事態をおくれかしたっていう、今のその辞書の中での、事務局からありましたですよ。そこらあたりを、両方である程度の話し合いをしながらたい、前に進む。

もう、はっきり言ってから、わびないとかわびつつかという問題じゃなかつたと思うとたいな。うん。遅延というのをどうお互いに理解していくんだということだけだからな、それはやっばし、みんながそれを認めるという一つ裏づけは、やっば両方しとかなんとしゃがな。

関連した中での、特にその成松委員言われた遅延については、おくれたは間違いないんじゃないかと、これは間違いないと思います。それが遅延なのかと言うたときに、辞典引いたところが、わざとその事態を、はっきり言ってからおくれかしたということに、それに該当すのかしないのか。

○委員長（田方芳信君） これ恐らく、どこまで行ってもなかなか重なる部分ちゅうのは、ないと思うとですよ。

○委員（亀田英雄君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） はい。ああ、はい、亀田委員。

○委員（亀田英雄君） いやいや、謝ってくれちゅう話じゃなく、私は発言の撤回だけを求めとつとですばい。

私的な問題って、どこが私的な問題かわからぬとに、今度は懲罰特別委員会にかかるとつとですけん、その客観的な判断なかつたのに、そんな問題ば議論しとつとところすばい。明らかに遅延という言葉出とつとだけん、それは違つとですけん、その発言を撤回してくれつてい

う話ですけん、何が不思議で、そう寄らぬとつとすか。

○委員長（田方芳信君） その考えが、もうお互い歩み寄りがないけん。

○委員（亀田英雄君） いやいやいやいや。

○委員長（田方芳信君） 考え方の違つとですばい。

○委員（亀田英雄君） いや、考え方の違つたらば、懲罰特別委員会てなかつつとすばい、あり得ぬとつとすばい。これは考え方の相違だもんだつては。

○委員（山本幸廣君） 委員長、遅延と、行為と、遅延という言葉が四つ熟語じゃなかつつとんが、下の行為とつとのが、そのあれ、わざとしたのかしてないのかとつと。

○委員長（田方芳信君） 小会します。

（午後1時16分 小会）

（午後1時33分 本会）

○委員長（田方芳信君） 本会に戻します。

（「はい」と呼ぶ者あり）

先ほど、結果として、本会議の再開がおくれたということでございますので、遅延とつとことで修正することにしたつとしましたが、よろしいでつとすばい。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） 異議なし。はい。

で、ほかに御意見ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） じゃあ、これより採決に……。〔採決まだ〕とつとすばい。

（笑声）

地方自治法の第135条に定めるいづれの懲罰を科すべきかについて、御協議を願います。

（「御意見でつとすばい」と呼ぶ者あり） 済みません、懲罰事犯として、懲罰を科すべきかどうか、また、懲罰を科すとすれば、地方自治法第135条に定めるいづれの懲罰を科すべきかについて、

御協議を願います。（「御協議」と呼ぶ者あり）

○委員（亀田英雄君） はい、委員長。

○委員長（田方芳信君） はい、亀田委員。

○委員（亀田英雄君） 御確認ですが、懲罰を科すべきかから入っとですか。

○委員長（田方芳信君） そうです。科すべきか、——科すことは、——科すべきかについてです。

○委員（亀田英雄君） ちゅうことでしょ。

○委員長（田方芳信君） はい。

○委員（亀田英雄君） 科すべきかについてから……。

○委員長（田方芳信君） これはもうだけん……。

○委員（亀田英雄君） じゃ、小会してください。

○委員長（田方芳信君） 小会します。

（午後1時35分 小会）

（午後1時38分 本会）

○委員長（田方芳信君） 本会に戻します。

懲罰事犯として懲罰を科すべきかどうか、また、懲罰を科すとすれば、地方自治法第135条に定めるいずれかの懲罰を科すべきかについて、御協議を願います。（「御協議」と呼ぶ者あり）あ、御協議を願います。

○委員（亀田英雄君） はい、委員長。

○委員長（田方芳信君） はい、亀田委員。

○委員（亀田英雄君） 先ほど、発言があったことは確認されたということなんですが、先ほどの話もです、客観的な判断という部分について非常に欠けておったと。で、その判断がなかまにですね、根拠、根拠がないままにされたということですね、非常に市民に疑念を抱かせるような判断だったと考えます。よって、次は懲罰を科すことなんですが、懲罰を科すことには当たらないというふうに考えますので、意

見を申し上げます。

○委員長（田方芳信君） ほかに御意見ありませんか。

増田委員。

○委員（増田一喜君） ここの趣旨弁明——古嶋議員が行われました趣旨弁明の中に、ちゃんと書いてございますので、だから、だからこれが抵触するちゅうことで、明らかに違反であるということだから、やはり何らかの懲罰を科す必要があると、私は思います。

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。

古嶋委員。

○委員（古嶋津義君） はい。地方自治法第134条、議決により懲罰を科することができるということでありまして、先ほど採決されました同第132条に抵触をしているということでありまして、私は、ただいま増田委員が言ったように、懲罰を科すのが妥当だと思っております。（「そのとおり」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員（亀田英雄君） もう一丁言うてよかですか。

○委員長（田方芳信君） はい、亀田委員。

○委員（亀田英雄君） 客観的な判断って私がさっき何遍も言うたですばってん、判断材料が、この基準がわからないままですたい。次の、懲罰を科すということが果たしてできるとですかね。その意味を込めて私はそげんことば言っとですばってんが、客観的な判断が全然なかじゃなかですか、誰が悪かつか、どぎゃしこ悪かつかという部分が。そういうことについてどげんして懲罰を与えなっとですかね。

○委員（成松由紀夫君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） はい、成松委員。

○委員（成松由紀夫君） 要するに、さっき確認されたのが、132条、他人の私生活にわたる言論をしてはならないに抵触したというのを

議決してまずし、そもそも議場の中で、この懲罰委員会を設置するのも、やはり多数の皆さん方の同意がありますので、速やかに採決を、（「同意得たちゅうことで」と呼ぶ者あり）客観的に見られたと思いますので、速やかに採決をお願いします。

○委員長（田方芳信君） じゃあ、ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） なければ、これより採決に入ります。

まず最初に、本件は、懲罰事犯として懲罰を科すべきものと決定することについて採決いたします。

野崎伸也君に対して、懲罰を科すことに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（田方芳信君） 挙手多数と認め、本案は懲罰を科すことに決しました。

小会します。

（午後1時41分 小会）

（午後1時47分 本会）

○委員長（田方芳信君） 本会に戻します。

懲罰について、何か御意見はありませんか。

○委員（古嶋津義君） はい。

○委員長（田方芳信君） 古嶋委員。

○委員（古嶋津義君） はい。ここに懲罰の種類というのが書いてございますが、2番目の、公開の議場における陳謝を求めたいと思います。

といいますのが、当日、議会の開会日でありましたが、このことについて、議長を通じてではありますが、申し入れをしました。陳謝を本会議場で、まあ文言の取り消しも含めてですが、お願いをしましたが、結果的に、あのように午後4時——4時半か4時か、まで、ちょっとかかったような気がいたしますので、やっぱりこ

の辺のところは少し、うん、陳謝ということで私はいきたいなと思っております。

以上でございます。（「優しか」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。

○委員（成松由紀夫君） はい。

○委員長（田方芳信君） 成松委員。

○委員（成松由紀夫君） 今、副委員長からありましたが、当日の経緯がやはり、そういう申し入れをしてですね、謝罪及び発言の訂正削除ということも申し入れがしてあった、その中で、応じられずに、これだけのことの、委員会まで設置してやっとなる——やっておるわけですから、陳謝以上でお願いしたいと思います。除名も含めた。よろしくお願いします。

○委員（山本幸廣君） 委員長、よろしいですか。

○委員長（田方芳信君） はい、山本委員。

○委員（山本幸廣君） まあ成松委員からも、除名の話ももう2回聞きましたが、除名とはということですね、その議員たる地位を失わせること。いろいろと思うことありますが、先ほど来、副委員長から、公開の議場における陳謝ということも出ました。

私は、公開の議場における戒告もいいんじゃないかなという気持ちを持っておりますが、皆様方の意見等聞きながらですね、最終的な判断をいたしたいと、そのように、委員長、私は今思っております。はい。

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。

○委員（亀田英雄君） よかですか。

○委員長（田方芳信君） 亀田委員。

○委員（亀田英雄君） 今までいろいろる申し上げまして、懲罰に当たらないという話まで申し上げてきた中で、懲罰、——多数決の原理でですね、このようなことになって甚だ遺憾なんです。できれば、皆さんの配慮をもって、一番軽いところで済ませていただきたいという

ふうに考えます。

そして、またですね、できればですよ、不信任案出したとは、私たちは一緒に気持ちで出したですけど、私たちも並べてもらえればよかばってんというふうに考えております。

以上です。

○委員長（田方芳信君） 小会します。

（午後1時50分 小会）

（午後1時55分 本会）

○委員長（田方芳信君） 本会に戻します。

○委員（大倉裕一君） いいですか。はい。

○委員長（田方芳信君） はい、大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。先ほど亀田委員からもお話があったんですけども、我々、懲罰に値しないというところからですね、いろいろ話をしてきたんですが、結果として、地方自治法第132条に触れるという採決のところから、罰を科すというようなところまで来ました。

我々のですね、思いを、9、——8名ですかね、の中で、思いを代表して、野崎代表が、うちの野崎代表が代弁をしてくれた、あそこに立って趣旨弁明をしてくれたという状況もあります。我々も、同じその内容の文を確認をしたという、本当、その状況もですね、一番冒頭に説明をさせていただいたというふうに思っています。

そういう意味からも、この場でこういうお願いをするというのは不適切なのかもしれません、一番軽い処分をですね、お願いできればというふうに思っております。よろしく申し上げます。

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） なければ、それでは、科すべき懲罰が2以上ある場合は、重い順に採決することとされております。

まず、野崎伸也君に除名、除名の懲罰を科すべしと決定することに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（田方芳信君） 挙手少数と認め、野崎伸也君に対し除名の懲罰を科さないことに決定しました。

それでは、次に野崎伸也君に出席停止の懲罰を科すべしと決定することに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（田方芳信君） 挙手なしと認め、野崎伸也君に対し出席停止の懲罰を科さないということに決定しました。

それでは、次に野崎伸也君に陳謝の懲罰を科すべしと決定することに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（田方芳信君） 挙手少数と認め、野崎伸也君に対し陳謝の懲罰を科さないことに決定しました。

それでは、次に野崎伸也君に戒告の懲罰を科すべしと決定することに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（田方芳信君） 挙手多数と認め、野崎伸也君に対し戒告の懲罰を科すことに決定しました。

小会します。

（午後1時59分 小会）

（午後2時04分 本会）

○委員長（田方芳信君） 本会に戻します。

それでは、戒告と決定しましたので、その案文につきましては次回の委員会で審議したいと思います、これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） 御異議がありません

ので、そのように決しました。

◎その他

○委員長（田方芳信君） 次に、次回開催日について、御協議願います。あ、御協議願います。（「委員長一任」と呼ぶ者あり）

それでは、次回開催日は、平成27年7月6日月曜日午後1時からとすることに、（「午後1時」と呼ぶ者あり）午後1時からする、（「午後1時」と呼ぶ者あり）はい。ことに、御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） 異議がなければ、一はい、御異議なしと認め、そのように決しました。

これをもって、本日の野崎伸也君に対する懲罰特別委員会を閉会いたします。

（午後2時05分 閉会）

八代市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

平成27年7月3日

野崎伸也君に対する懲罰特別委員会

委員長